（3）子ども・若者の意識・意向＜ヒアリング調査の結果＞

調査目的

アンケート調査では把握しきれない子どもの思いや、困難を抱える子ども・若者の実態や意識を把握することを目的に、関係機関や団体の協力を得て、子ども・若者へのヒアリングを実施しました。

調査実施場所

（1）子どもの居場所

①子どもスキップ、②中高生センタージャンプ、③子ども食堂、④プレーパーク

（2）困難を抱える子ども・若者

①障害を持つ児童を受け入れている子どもスキップ

②外国籍の子どもを対象に学習支援を行う団体

③多様な性自認・性的指向の子どもを支援する団体

④不登校・ひきこもり（または経験のある）の子どもを支援する団体

⑤虐待・DVなどの被害を受けた子ども（母子生活支援施設）

調査結果（ヒアリングから分かったこと）

子どもの権利に関すること

- いずれのヒアリング対象施設・団体においても「豊島区子どもの権利に関する条例」を知っている子どもはおらず、アンケートと同様の認知度の低さが見られました。

子どもの意見表明・参加の促進に関すること

- 学校のルールに関しては、意見を言う機会がないという回答があり、そもそも学校のルールに意見を言うという考えが無いことがうかがえました。

子どもの居場所に関すること

- 公園やスポーツ・運動のできる場所の増設を望む回答が多くありました。
- 小学校高学年や中高生になると、遊べる場所、集まれる場所が少なくなることがわかりました。
- 不登校経験のある子どもからは、話を聞いてくれる場が欲しいという回答や、同じ悩みを持つ人同士が集まって話せる居場所があれば行っていたかもしれないという回答もありました。

子どもの権利侵害の防止及び相談・救済に関すること

- アンケート同様に、被虐待経験のある子どもは少数でしたが、少数ながら暴力を受けた経験や傷つく言葉を言われた経験、DV を目撃した経験を話す子どもがいました。
- アンケート同様に、いじめを受けたことのある子どもは少数ながら存在しました。

悩みや不安、相談に関すること

- 知っている相談窓口について、具体的な窓口名を挙げた回答がなく、窓口の認知度の低さがうかがえました。
- 学力や進路、将来のことについて不安を感じている子どもが多く、外国にルーツを持つ子どもは勉強面での悩みを抱えている子どもが多いことがわかりました。
- 学校でない場で相談できる窓口や、専門家による相談窓口の設置を望む声など、相談窓口について、抱えている背景によって多様な要望が見られました。

子どもの自己肯定感について

- 自分のことが「好き」「まあまあ好き」「普通」という回答が多数でしたが、「嫌いになるときもある」「自分の性格が嫌い」と回答した子どももいました。

豊島区の施策に関すること

- 区役所にやってほしいこととして、遊ぶ場や相談できる場の増設、学校の環境整備などに関する回答がありました。「学校のルールを無くしてほしい」や「同性婚が出来るようにしてほしい」といった自由度をあげて欲しい旨の意見がある一方で「喫煙を取り締まって欲しい」などのルールの強化を望む声もみられました。

【ヒアリング調査結果を踏まえた施策の方向性】

- 子どもの権利を尊重し、子どもが一人ひとり自分らしく育つために、「豊島区子どもの権利に関する条例」への認知度を高め、子どもが意見を言える場づくりを推進します。
- 小学校高学年や中高生の遊び場や、放課後に過ごせる居場所の充実に取り組みます。また、同じ悩みを持つ仲間と交流できる居場所をつくるなど、一人ひとりが自分らしく過ごせる居場所づくりに取り組みます。
- 子どもの権利侵害の防止及び相談・救済を推進するために、子どもの相談窓口の認知度を高めるともに、個々の窓口の具体的な利用方法についても発信していきます。

（目標Ⅰの「子どもの権利に関する理解促進」、「子どもの居場所・活動の充実」、「子どもの権利侵害の防止及び相談・救済」、目標Ⅴの「相談体制の充実と情報発信」に反映させます。）